

カーディフ大学日本語教育プログラム報告書

言語教育研究科日本語コース 阿形多起
外国語学部 日本語専攻 倉本優衣

1. 研修期間

2018年2月19日～3月16日
(ホームステイは2月16日～3月18日まで)

2. 指導教員・参加者

指導教員：百濟正和先生（カーディフ大学）
参加者：北海道学園大学 3名
 姫路獨協大学 2名

3. 費用

プログラム費用：£1950（日本円で約30万円）
渡航費 ：約14万円
生活費 ：約3万円（昼食費、バス）

注意：滞在中に旅行した費用は含まれていない。

4. 日程（◎：土日）

2018年2月14日 イギリスに向け出国（シンガポール経由）
 15日 早朝にイギリスヒースロー空港到着（ロンドン泊）
 16日 ヴィクトリアコーチ駅からバスでカーディフへ
 （百濟先生と合流後、ホームステイ先へ）
◎17・18日 カーディフ市内を散策
 （バス停やスーパー、通学路を確認）
19日～23日 1. 百濟先生よりTBLTのレクチャーを受ける
 2. 日本語クラスの見学
 （19日午前は英語学校にてプレースメントテスト・イントロダクション）
◎24・25日 スピーチコンテスト（ロンドン）・観光
26日～3月9日 午前英語学校、午後教案作成
 10・11日 授業準備
 12日～16日 TBLTに基づいて実習授業
 ◎17日 セミナー参加
 ◎18日 カーディフ出発
 23日 ロンドンヒースロー空港から日本へ向けて（シンガポール経由）

5. 滞在先

ホームステイか寮を選択できる。ただし、寮は人数制限がある。私たちは、ホームステイを選択した。倉本のホームステイ先は、大学から歩いて約25分のところだったので、毎朝歩

いて行っていた。家の前からバスも出ていた（バス運賃一律£1.90）。家族は、50代の女性と二人暮らしだったので、かなり自由だった。昼食はプログラム費用に含まれていないので、キッチンを借りてサンドウィッチを作るなどしていた。阿形のホームステイ先は、ステイ先から大学まで徒歩40分、バス10分+徒歩15分の場所だった。治安も大変良く、安心して徒歩で通うことができた。成人していることから、自己責任で自由に生活することができた。ホストレディーと一緒に出掛けたりした。

6. カーディフ

カーディフは、イギリスのウェールズの首都で、大学や市の中心部を含む観光地は、歩いて移動が可能なのでコンパクトで生活しやすい街だった。治安も市の中心部だけ気を付ければ、大体一人で歩いて大丈夫だったので、安心できた。

7. TBLTレクチャー・授業見学及び日本語教育実習

百濟先生よりTBLT (Task-based Language Teaching) について、レクチャーしていただき、教育実習ではタスクを中心にカーディフのモダンラングエッジコースで学ぶ2年生に対して授業を行う。授業見学は、合計で10時間なので1日2コマ程度見学させてもらう。先生に申告すれば10時間以上でも積極的に見学を受け入れてくれる。Y2の授業だけでなく、Y1・Y4・Japanese for allのクラスの見学をした。本実習では、1人1つのタスクを主に授業した。倉本は、「交通機関」というタスクで授業した。マナーを向上させるためにはというテーマに進めるように授業した。TBLTは、学習者にタスクを与えて、教師も一緒にそのタスクについて考え、そして言語の補助を行っていくが、これが教師の力量を問われまだまだ目標達成には到底及ばず、これからの課題が多く見つかった。しかし、学生は楽しんでくれたようなのでそこはよかったと思う。阿形は、1回目は、「オリンピック-開催国になるメリット-」で、2回目は、「平和-平和の条件②-」を行った。今まで授業内であまり発言しなかった学生が自発的に日本語を話そうとした。しかし、タスクについて発言した言葉をどのように教師が拾いどこまで深めるか、授業内コントロールで、教師の力量が問われると感じた。また、実習を通してイギリスのこと、学生のこと、学生のバックグラウンドを知り、言葉を選ばないといけないと感じた。

表1. 実習生タスクテーマ

1	教育
2	図書館
3	交通機関
4	オリンピック
5	平和—平和の条件—①
6	ホームレス
7	恋愛—日本人の若者の恋愛離れ—
8	平和—平和の条件—②

8. 英語学校 (CELT)

英語学校は、大学から歩いて15分ほどで、プレースメントテストの結果を元にクラス分けされる。倉本のクラスは、サウジアラビア人がほとんどで、チェコ人が一人、日本人は倉本とプログラムの参加者の一人と同じだった。問題は特になく、お互いの文化を話し合ったりして楽しく過ごせた。阿形のクラスは、サウジアラビア人、トルコ人、ギリシャ人、イタリア人の7人クラスだった。授業内容は主に文法を重視するが、ディスカッションが多かった。

9. その他情報

- ・カード社会なので、クレジットカード必須。
- ・携帯電話は、SIMフリー携帯を持っていくか、SIMロックを解除し、現地の携帯会社でSIMカードを買うと便利。現地の携帯会社はEE、Vodafone、Threeなどがある。
- ・ロンドン⇄カーディフの交通手段はバス (Megabus、National bus) 、電車がある。電車は高いので、バスで事前にネット予約しておくのと、安く行き来できる。交通機関の運賃や時刻表などの検索はTrain Line が便利。